

単元名 ひょうしとせんりつ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と拍やその流れなど音楽の構造との関わりに気付くとともに、互いの歌声や音、伴奏を聴いて声を合わせて歌ったり、楽器を演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 拍やその流れ、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲のよさを見い出して聴いたりすることができる。
- (3) いろいろな拍子の音楽に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070104_001

【教材名】エーデルワイス（歌唱 器楽） トルコ行進曲（鑑賞） ラバーズコンチェルト（歌唱） メヌエット（鑑賞） (P. 16～P. 21)

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、リコーダー、鍵盤楽器、鉄琴、木琴、（映画「サウンド オブ ミュージック」の映像）、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「エーデルワイス」を、3拍子の拍の流れにのって、歌ったり演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「エーデルワイス」の主旋律を拍子を感じながら歌詞唱する。 ★はくの流れやせんりつの感じを生かしてえんそうしよう <ul style="list-style-type: none"> ・既習の「サウンド オブ ミュージック」の鑑賞を思い出して範唱を聴く。 ・3拍子の拍の流れを感じて、リズム打ちをする。 ・リズム打ちをしたり、旋律のまとまりを感じたりしながら歌う。 ○旋律のまとまりを捉えて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を見て、似ている旋律と、違う旋律を見付ける。 ・それぞれの旋律の特徴と、続く感じから落ち着く感じかについて交流する。 ・旋律に合った歌い方について考える。 ・歌詞に合った歌い方について考える。 ○主旋律を楽器で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱する。 ・リコーダーの場合、タンギングやブレス、運指を思い出し、1段ずつゆっくり取り組む。 ○主旋律を歌詞唱したり、楽器で演奏したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・リズム打ちをしながら歌詞唱する。 ・旋律のまとまりに気を付けて歌詞唱する。 ・リコーダーで演奏する。 ○リコーダーで下の旋律を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・副次的旋律を階名唱する。 ・リコーダーで練習する。 ・副次的旋律を歌詞唱する。 ○二重奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・聴き合いながら、3拍子にのって合わせる。 ・歌と楽器で合わせる。 ・時間があれば、副次的旋律も合わせる。 <p>3～4 「トルコ行進曲」を、2拍子の拍の流れを感じて聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「トルコ行進曲」を、拍を感じながら聴く。 ★2びょうしを感じてしきをしてみよう <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしながら全曲聴き、気付いたことを交流する。 ・打楽器のリズムに注目して聴く。 ・行進曲について知る。 ○2拍子の指揮の動きをしながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・2拍子の指揮の動きについて知る。 ・指揮の動きをしながら聴く。 ・強弱について注意しながら、指揮の動きをして聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なめらかな3拍子の流れを感じ取らせる。 ・3拍子のリズム打ちは、ひざ打ち→手拍子→手拍子（トン タン タン）をさせるとよい 1拍目に少しアクセントを付けるような感じで打つようにさせる。 ・4小節ずつが旋律のまとまりになっていることに気付かせ、息継ぎをそろえることでまとまりを感じ取らせる。 【共通事項】拍 旋律 ・楽譜を基に、各パートの旋律の動きや役割について理解させるとともに、それを生かした歌い方の工夫について考えさせていく。 ・教師が1段ずつ範奏して見せながら進める。 【評】拍やその流れ、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・歌詞唱のときのように、歌うように演奏することを意識させる。 ・ブレスの場所に気を付け、フレーズを感じて吹くようにさせる。 ・フレーズごとに教師が範奏しながら吹かせる とよい。 ・低い音のタンギングは「トゥ」ではなく「トオ」に近くするときれいに音が出る。 ・教師が1フレーズずつ範奏しながら進める。 ・聴き合って、響きのバランスを取るような方向へ進める。 【評】互いの歌声や音、伴奏を聴いて声を合わせて歌ったり、演奏をしたりすることを通して「技能」を評価する。 ・拍の流れにのりながら、吹奏楽の勇壮さや快活さを味わわせる。 ・打楽器のリズムに注意して聴かせると、2拍子の感じがつかみやすい。「タン ウン タン ウン タンタンタン」のリズム打ちをするとよい。 ・拍に合った動きをしている子、打楽器のリズムに合った動きをしている子、強弱に合った動きをしている子を取り上げ、理由を聞いていく。 【共通事項】拍 強弱 【新出】4分の2拍子 ・4分の2拍子を説明し、P18の図を見せながらリズムカルに指揮をさせる。 ・強いところでは振りを大きく、弱いところでは振りを小さくするようにする。手だけでなく、体全体で表現させるとよい。

- <もっとあそぼう>「メリーさんの羊」を歌う。
 - ・ 2拍子を感じながら歌う。
 - ・ リズム打ちしながら歌う。
 - ・ 指揮の動きをしながら歌う。
 - 「メリーさんの羊」を鍵盤楽器で演奏する。
 - ・ 階名唱や、運指唱をする。
 - ・ 鍵盤楽器で練習する。
 - 指揮を見て歌ったり演奏したりする。
 - ・ 指揮の役を決め、指揮に合わせてみんなで歌ったり演奏したりする。
 - ・ 指揮者が身振りを大きくする→みんなが強く歌う→身振りを小さくする→弱く歌う などのように、見ながら表現を変化させる。
 - ・ 面白いと思ったことを交流する。
- 5～6 「ラバーズ コンチェルト」の4拍子と、「メヌエット」の3拍子の拍の流れの違いを聴き取ったり表現したりする。
- 「ラバーズ コンチェルト」を歌詞唱する。
- ★ ひょうしのちがいを感じ取り はくの流れにのって歌おう
- ・ 範唱を聴いて曲の感じをつかむ。
 - ・ 歌詞唱する。
 - ・ 楽譜を見て、似た旋律、違う旋律を見付けたり、続く感じ、落ち着く感じかについて考えたりして歌う。
- 4拍子の指揮をする。
 - ・ 4拍子の指揮の動きについて知る。
 - ・ 指揮の動きを確かめながら歌う。
 - ・ 指揮の役を交代し、それに合わせて歌う。
 - 「メヌエット」を聴く。
 - ・ 何拍子の音楽なのか考えながら聴く。
 - ・ 3拍子の指揮の動きについて知る。
 - ・ 指揮をしながら聴く。
 - ・ 旋律について気付いたことを交流する。
 - 「メヌエット」と「ラバーズ コンチェルト」を比べる
 - ・ 「メヌエット」を3拍子の指揮の動きをしながら聴く
 - ・ 「ラバーズ コンチェルト」を、3拍子の指揮の動きをしながら歌ったり、4拍子の指揮の動きをして歌ったりする。
 - 「トルコ行進曲」を強弱や速度に合わせて指揮の動きをしながら聴く。
 - ・ 2拍子の指揮の動きを確認してから聴く。

【評】 拍やその流れ、旋律を聴き取り、それらの動きが生み出すよさを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 2拍子の拍の流れを感じながら歌う。
- ・ 1拍目に少しアクセントをつけるイメージで歌わせる。

- ・ 実態に応じて歌だけにしてもよい。

- ・ 指揮者には、みんなが速度や強弱がわかるように指揮することを伝え、歌ったり演奏したりさせる。

【共通事項】 速度

【評】 曲想と拍やその流れなど音楽の構造との関わりを捉えながら表現する活動を通して「知識」を評価する。

- ・ 1～8小節目と、9～16小節目がよく似ていることに気付かせる。
- ・ 息継ぎ（ブレス）の場所に注意し、ブレスの前の音が短くならないように、気を付けさせる。

【共通事項】 拍 旋律

- ・ 4分の4拍子の説明をし、教科書P20の図を見ながら指揮をさせる。独自の指揮を考えさせてもよい。
- ・ 児童に順に指揮をさせてもよい。

【新出】 4分の4拍子

- ・ 3分の4拍子の説明をし、曲に合わせてなめらかに指揮をしていくようにさせる。
- ・ 「ラバーズ コンチェルト」と旋律が似ていることに気付かせる。

【資料】 「ラバーズ コンチェルト」は、デニー・ランデルがバッハの「メヌエット」を1965年にポピュラー曲として編曲したものである。したがって、旋律の流れがよく似ている。

【新出】 4分の3拍子

- ・ 鑑賞CDや範唱CDに合わせて指揮をさせる
- ・ また、曲の雰囲気合う指揮の動きを考えさせてもよい。
- ・ 旋律と拍子の関係について気付かせる。

- ・ 範唱CDに合わせて指揮をさせる。曲の雰囲気に合う指揮の動きを考えさせてもよい。例えば、「トルコ行進曲」は歯切れよく振る、「メヌエット」は優しくなめらかに振る、など。

【評】 いろいろな拍子の音楽を聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】